

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-311084  
(P2000-311084A)

(43) 公開日 平成12年11月7日 (2000.11.7)

(51) Int.Cl.

G 0 6 F 9/06

識別記号

5 5 0

F I

G 0 6 F 9/06

特開2000-311084 (参考)

5 5 0 J 5 B 0 7 6

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平11-156929

(22) 出願日 平成11年4月26日 (1999. 4. 26)

(71) 出願人 599076103

魚 秀奉

東京都立川市柏町1-12都営4-303

(72) 発明者 魚 秀奉

東京都立川市柏町1-12都営4-303

Fターム(参考) 5B076 AA01 FA06 FB02

(54) 【発明の名称】 マイクロソフトウインドウズ用ソフトウェアのプロテクション

(57) 【要約】

【課題】 現行のソフトウェアは一旦購入すればユーザーが一本のソフトウェアを、所有する複数のコンピュータにインストールして使用する事も可能である。また、マスターディスクを大量にコピーして販売する者も後を絶えない。これらの事柄は違法であり著作者、ソフトウェアメーカーを救済すべく早期に解決されることが急務である。

【解決手段】 ソフトウェア一式に対しコンピューター台という図式を成立させるにはソフトウェアがインストールされるコンピュータを特定できれば解決できる。そこでユーザーが利用しているウインドウズの登録情報をソフトウェアのサポートセンターが把握し正規ユーザーを特定してソフトウェアの利用を限定する。この限定方法としてウインドウズの登録情報とリンクしたパスワードによる保護をソフトウェアに組み込む。

1

**【特許請求の範囲】**

**【請求項1】** マイクロソフトウインドウズの登録情報を利用してウインドウズ用ソフトウェアの不正ユーザーを排除するソフトウェアプロテクション。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

**【産業上の利用分野】** 企業、学校、家庭等に設置されたパーソナルコンピュータが対象。

**【0002】**

**【従来の技術】** 従来の技術ではソフトウェアのバージョンアップで対象ソフトの既存ユーザーが所持するソフトウェアをアップグレードする際に旧製品のディスクをインストーラーに認識させる事、あるいは旧製品のシリアル番号を認識させる事で正規ユーザーの認証を行っていた。依って初めて購入したソフトウェアのユーザー認証方法は全く用意されていなかった。また、バージョンアップでの認証と言ってもコピーされた旧製品のディスクを用意するか旧製品を持っているユーザーが旧製品のシリアル番号を他の者に提供してもバージョンアップ版のインストールは可能であった。

**【0003】**

**【発明が解決しようとする課題】** 現行のソフト・ウェアは一旦購入すればユーザーが一本のソフトウェアを、所有する複数のコンピューターにインストールして使用する事も可能であり複数ライセンスを取得せずに利用しようとする事業所等も多数存在すると思われる。また、CD-ROMライター装置等でマスターディスクを大量にコピーして販売する者も後を絶えない。オンラインで配布されるシェアウェアソフト等では料金を支払った正規ユーザーに対して著作権が正規版を利用できる本登録のパスワードを交付するが一部の悪意の利用者が一度得た本人しか利用できないパスワードを他の利用者に告知したりインターネットの掲示板等に掲示してしまうという様な状況も起きている。これらの事柄は違法であり著作権者、ソフトウェアメーカーを救済すべく早期に解決されることが急務である。

**【0004】**

**【課題を解決するための手段】** ソフトウェア一式に対しコンピューター台という図式を成立させるにはソフトウェアがインストールされるコンピュータを特定できれば解決できる。現在非常に多く流通していて業界の標準と言っているオペレーティングシステムがマイクロソフト社のウインドウズシリーズである。本発明はこのウインドウズの登録情報を元にして正規ユーザーを識別するので現在問題となっている違法コピーユーザーを排除する為の手段となりうる。具体的にはユーザー自身のウインドウズ登録情報をソフトウェアのサポートセンターにて登録し、それを元にアプリケーションインストール時

2

のパスワードをソフトウェアメーカー側から交付する事によって該当のソフトウェアを正規ユーザー以外の者に使用できなくするものである。

**【0005】**

**【実施例】** マイクロソフトウインドウズのインストール時にユーザー自身が入力するCDキーという文字列の10桁の英数字はインストール後に先頭に5桁、後尾に5桁の数字をシステム側が追加し合計20桁となったものがプロダクトIDとしてsystem.datに記録される。この情報はオペレーティングシステムとしてマイクロソフトウインドウズを利用する各ユーザーのコンピューター固有のものであり、当該コンピューターに必ず存在する。プロダクトIDはウインドウズのみではなくウインドウズアプリケーションがインストールされた後にもアプリケーションソフトのプロダクトIDがsystem.datに記録されるのでプロダクトIDはウインドウズとウインドウズアプリケーションの個数分だけ存在することになるが同一の文字列は一つも存在しない。最初にアプリケーション購入者は自身が利用中のウインドウズ95又は98の登録情報からプロダクトIDの文字列とこれから組み込むソフトウェアのシリアルナンバーを確認しその文字列を購入ソフトウェアのサポートセンターへ連絡を行う。system.datには複数のプロダクトIDが存在するがユーザーからウインドウズのプロダクトIDの情報を入手し検索するため正しい処理が行える。サポートセンターでは購入者のプロダクトID情報とソフトウェアのシリアルナンバーをキーにして自社に備えた乱数表からパスワードを抽出し購入者に伝える。ソフトウェアにも乱数表に対応するデータテーブルが内蔵されているので購入者はこのパスワードを入力して初めてソフトウェアの正規ユーザーとなる。パスワードを入力しない場合はソフトウェアのインストール後、一定の期日が過ぎると対象のソフトウェアを起動出来なくなるようプログラム内に期日タイマーが組み込まれている。正規パスワードが入力された時点でタイマーが解除される仕組みになっている。

**【0006】**

**【発明の効果】** ソフト・ウェアの違法コピーを無力化する事も夢ではない。なぜなら本発明で利用するマイクロソフトウインドウズの登録情報はウインドウズのインストールディスクの個別にナンバーが割り当ててあり同一のナンバーは存在しないので利用者を特定できるからだ。仮に、ディスクを違法コピーしても登録情報が同じであるとソフトウェアのサポートセンターに申告しても登録時に重複が発覚し登録自体が無効となりパスワードを入手出来ない。パスワードが入手できない限りソフトウェアの利用はできなくなる。

## 【手続補正書】

【提出日】平成11年10月28日(1999.10.28)

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】

【実施例】マイクロソフトウィンドウズのインストール時にユーザー自身が入力するプロダクトキー(英数字からなる数桁の文字列)はインストール終了後にウィンドウズの登録情報が記録されるレジストリに格納される。現行のコンシューマ、オフィス向けウィンドウズ(Windows 95/98)やサーバー、ネットワーク向けウィンドウズ(Windows NT)ではProduct Idと呼ばれる項目に保存される。この情報はオペレーティングシステムとしてマイクロソフトウィンドウズを利用する各ユーザーのコンピューター固有のものであり、当該コンピューターに必ず存在する。Product Idはウィンドウズのみではなくウィンドウズアプリケーションがインストールされた後にもアプリケーションソフトのProduct Idが記録されるのでProduct Idはウィンドウズとウィンドウズアプリケー

ションの個数分だけ存在することになるが同一の文字列は一つも存在しない。最初にユーザーは自身が利用中のウィンドウズのシステムのプロパティ等からProduct Idの文字列とこれから組み込むソフトウェアのシリアルナンバーを確認しその文字列を購入ソフトウェアのサポートセンターへ連絡を行う。レジストリ内には複数のProduct Idが存在するがユーザーからウィンドウズのProduct Idの情報を入手し検索するため正しい処理が行える。サポートセンターでは自社に於いて自社ソフトウェア製品に関するデータベースを用意する。これはウィンドウズにインストールされたソフトウェアの正規ユーザーチェックをパスする為のものでサポートセンターがユーザーからの問い合わせに対してユーザーが申告したウィンドウズProduct Idと自社製品のシリアルナンバーをサポートセンターのデータベースで照し合わせ該当するパスワードを抽出する。そしてこのパスワードをユーザーに告知する。ユーザーはこのパスワードを入力して初めてソフトウェアの正規ユーザーとなれる。パスワードを入力しない場合はソフトウェアのインストール後、一定の期日が過ぎると対象のソフトウェアを起動出来なくなるようなプログラムを用意して正規パスワードが入力された時点で制限が解除される仕組みを作っておく。

THIS PAGE BLANK (USPTO)